

I. 二つの祭壇は、すなわち、全焼のささげ物の祭壇と金の香壇は、神のエコノミーを遂行するためです：
出27:1 また、あなたはアカシア材で祭壇を作らなければならない。長さ五キュビト、幅五キュビトであり、その祭壇は正方形で、その高さは三キュビトでなければならない。² その四隅の上に角を作らなければならない。その角は祭壇の一部であり、青銅で祭壇を包まなければならない。³ また、灰を取り除く壺、十能と鉢と肉刺しと火皿を作らなければならない。そのすべての器具を青銅で作らなければならない。
出30:1 あなたはまた、香をたく祭壇を作らなければならない。それをアカシア材で作らなければならない。その長さは一キュビト(約45cm)、その幅も一キュビトで、それは正方形であり、その高さは二キュビトでなければならない。香壇の一部として角がなければならない。⁵ また、アカシア材の竿を作り、それを金で覆わなければならない。

啓8:3 また、もうひとりの御使いが来て、金の香炉を持って祭壇の所に立った。多くの香が彼に与えられたが、それはすべての聖徒の祈りと共に、御座の前にある金の香壇の上にささげるためであった。

A. 神の働きは、彼のエコノミーを完成するためであり、神は彼のエコノミーにおいて、拡大された、宇宙的な、神性と人性の合併を持つことを願っています：

ヨハネ14:20 その日には、私が私の父の中におり、あなたがたが私の中におり、私があるがたの中にいることを、あなたがたは知るであろう。

1. 神が幕屋から出て来られたのは、私たちを幕屋の中へと、すなわち、彼が住んでおられる場所そのものへともたすためです。
2. 主イエスが十字架に行った目的は、私たち墮落した罪人を、ご自身が住んでいる場所にもたらし、ご自身へと連れ戻すためでした。

B. 二つの祭壇は、神の全体的な救いと関係があります：

ローマ5:10 というのは、私たちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

1. 全焼のささげ物の祭壇は、神の法理的な贖いと関係があります。神の法理的な贖いは物質の領域の中で、キリストによって、彼の地上の務めにおいて完成されました。
2. 金の香壇は、神の有機的な救いと関係があります。神の有機的な救いは、神聖で奥義的な領域の中で、キリストによって、彼の天の務めにおいて遂行されています。

ヘブル7:25 こういうわけで、彼を通して神に進み出る者たちを、彼は極みまで救うことができます。なぜなら、彼はいつも生きていて、彼らのためにとりなしておられるからです。

C. 私たちが見る必要があるのは、二つの祭壇が、油塗りによって(30:26-28)、罪のためのささげ物の血によって(レビ16:18. 4:7)、ささげ物を焼いた火によって(6:13. 16:12)結び付けられているということです。

出30:26 それをもって、あなたは次のものに油塗らなければならない。すなわち、集会の天幕と証しの箱、27 また机とそのすべての器具、また燭台とその器具、また香壇、28 また全焼のささげ物の祭壇とそのすべての器具、また洗盤とその台である。

レビ16:18 彼はエホバの御前にある祭壇に出て行って、そのために罪を覆わなければならない。彼は雄牛の血とやぎの血を取って、祭壇の四隅の角の上と周りに付けなければならない。

4:7 また、祭司はその血を、集会の天幕の中にあるエホバの御前のかおり高い香の祭壇の角に付け、その雄牛の血の残りすべてを、集会の天幕の入り口にある全焼のささげ物の祭壇の基に注ぎ出さなければならない。6:13 火は祭壇の上で絶えず燃え続けさせなければならない。それを消してはならない。16:12 彼は、エホバの御前の祭壇から炭火を満たした香炉と、きめ細かくひいたかおり高い香を両手いっぱいにとって、幕の内側に持って行かななければならない。

II. 全焼のささげ物の祭壇は、キリストの十字架を予表します：出40:6 また、全焼のささげ物の祭壇を、集会の天幕である幕屋の入り口の前に据えなければならない。ヘブル13:10 私たちには、一つの祭壇があります。幕屋に仕えている者たちは、この祭壇から食べる権利はありません。

A. 十字架は、すべての霊的な経験の基礎、立場です。すべての霊的な経験は、十字架から開始します。ガラテヤ6:14 しかし、私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇るようなことが断じてあってはなりません。その方を通して、この世は私に対して十字架につけられ、私もこの世に対して十字架につけられてしまったのです。2:20 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。1コリント2:2 なぜなら、私はあなたがたの間ではイエス・キリスト、しかも十字架につけられたこの方のほかは、何も知るまいと決心したからです。

B. 十字架は、神のエコノミーにおける神の活動の中心です：

ガラテヤ1:4 キリストは私たちの罪のために、ご自身を与えられました。それは、彼が私たちの神また父のみこころにしたがって、私たちを現在の邪悪な時代から救い出すためです。

神のエコノミーを遂行することにおいて、十字架が中心です。キリストがなければ、神のエコノミーには中心がなく、キリストの十字架がなければ、神のエコノミーの活動には中心がありません。ですから、神のエコノミーを遂行することは、完全にキリストの十字架にかかっています。十字架は、神のエコノミーを遂行する宇宙における神の活動の中心です。

1. 神は彼のエコノミーにおいて、ひとりのパースン、すなわち、キリストと、一つの道、すなわち十字架を私たちに与えています。

十字架(祭壇)はパースンでしょうか、それとも物でしょうか？ このような質問をしなければならない理由は、祭壇の実質がアカシア材であり、アカシア材は主の人性を表徴しているからです。祭壇を作るのに用いられたアカシア材は青銅で包まれました。しかしながら祭壇の基本的な実質、基礎的な材料はアカシア材であって、青銅ではありませんでした。このアカシア材は人なるイエスを表徴しています。これは祭壇(十字架)が人と関係があることを暗示しています。

コロサイ1:20 そして、彼を通して万物を、すなわち、彼を通して、地にあるもの天にあるものをご自身に和解させ、彼の十字架の血を通して、平和をつくられたのです。27 神は彼らに、異邦人の間にあるこの奥義の栄光の豊富がどんなものであるかを、知らせたいと願われました。それはあなたがたの内にいますキリストであり、栄光の望みです。

2. 十字架は、神の行政の中心です。神は十字架によってあらゆるものを統治し、十字架によってあらゆるものを対処します。

Ⅲ. 全焼のささげ物の祭壇は、青銅で包まれたアカシア材で作られていました(出27:1-2)：

A. 全焼のささげ物の祭壇の基本的な実質は、アカシア材でした：

1. アカシア材は、主イエスの人性を表徴します。彼は私たちの身代わりとして、十字架上で神によって裁かれました。

I テモテ2:5 なぜなら、ひとりの神がおられ、また神と人との間にひとりの仲保者、すなわち人なるキリスト・イエスがおられるからです。

2. 十字架は単なる物ではありません。十字架はパースンと関係があり、このパースンはキリストです。

3. 救う要素は、物としての十字架の中にあるのではなく、パースンの中に、すなわち、私たちのために十字架につけられた方の中にあるのです。

4. 十字架の効力は、十字架そのものの中にあるではありません。それは、十字架と関係がある人性の中に、また十字架につけられた人性の中にあります。

B. 青銅は、私たちの身代わりとしてのキリストに対する神の義なる裁きを表徴します。

ローマ8:3 律法が肉のゆえに弱くて、なし得なかったので、神は、ご自身の御子を罪の肉の形で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました。

C. アカシア材が青銅で包まれていたことが表徴しているのは、キリストが人と成って、十字架上で死に、私たちのために神の裁きを担ったということです。I ペテロ3:18 キリストも、罪のために、ひとたび苦しみました。義なる方が不義なる者たちに代わってくださったのです。それは、彼があなたがたを神にもたすためです。彼は肉においては死に渡されましたが、霊においては生かされたのです。 3

IV. 格子状の網は、祭壇の最も重要な部分です。なぜなら、それはキリストの贖いの奥義を描写しているからです:

出27:4 また、祭壇のために、青銅を編んで格子状の網を作り、その網の上の四隅に、青銅の環(かん)を四つ作らなければならない。

ローマ3:24 無代価で、彼の恵みにより、キリスト・イエスにある贖いを通して、義とされるからです。

A. 格子状の網は、贖いの働きにおける贖い主キリストを表徴します。

エペソ1:7 その愛する者の中で、私たちは彼の血を通しての贖い、すなわち違犯の赦しを受けています。これは、神の恵みの豊富によります。

B. 青銅の格子状の網とその環と竿は、祭壇の内容であり、それはキリストの贖いの内なる内容を表徴しています。

C. 祭壇の内側にある青銅の格子状の網は、神の裁きがキリストの内側の各部分に達したことを表徴します。

詩22:14 私は水のように注ぎ出され、私の骨はすべてはずれています。私の心はろうのようであって、私の内で溶けています。

祭壇の内側にある青銅の格子状の網は、神の裁きがキリストの内側の各部分に達したことを表徴しています。私たちの身代わりとしてのキリストに対する神の裁きは、単に外側のことだけではありませんでした。神の裁きの聖なる火は、キリストの外側にあっただけでなく、また彼の内側で燃えていました。これは詩篇第22篇14節において示されており、その詩篇は十字架上のキリストの苦難に関するものです。これはキリストが神の裁きを担われたとき、その裁きは彼の心に、彼の内側の各部分に達したことを示しています。彼の骨はすべてはずれ、彼の心は彼の内側の各部分において溶けました。この意味は、キリストに対する神の裁きが、内側の経験が外側の経験よりも多かったということです。

D. 格子状の網が祭壇の内側にあったことが表徴しているのは、私たちの身代わりとしてのキリストに対する神の裁き(青銅)が、単に外側だけではなく、キリストの内側の各部分に達したということです:

1. 神の裁きの聖なる火は、キリストの外側にあっただけではなく、また彼の内側で燃えていました。
2. キリストが神の裁きを担ったとき、その裁きは彼の心に、彼の内側の各部分に達しました。彼の心は、彼の内側の各部分において溶けました。
3. キリストに対する神の裁きは、内側の経験が外側の経験よりも多かったのです:
 - a. 実は、キリストが内側で受けた苦しみは、外側で受けた苦しみよりも多かったのです。
 - b. 格子状の網は、すなわち、神の裁きの聖なる火が燃えた場所は、主イエスの中に、すなわち彼の内側の各部分の中にもありました。
 - c. 格子状の網が祭壇の内側にあったことの意義は、キリストが、彼の体においてだけではなく、彼の心において神の裁きを担われたということです。

E. 贖いは、単なる事柄ではなく、パースン、すなわちキリストご自身です。ですから、キリストと彼の贖いは分離することができません。

ヘブル9:12 やぎや子牛の血を通してではなく、ご自身の血を通して、一度で永遠に至聖所へと入り、永遠の贖いを獲得されたのです。

V. 格子状の網の四隅にある青銅の四つの環は、永遠の霊を予表しています(出27:4):

ヘブル9:14 まして、キリストが永遠の霊を通して、傷のないご自身を神にささげられたその血は、なおさら私たちの良心をきよめて、死んだわざから離れさせ、生ける神に仕えるようにさせないでしょうか？

A. すべてを含むキリストは、永遠の霊を通してすべてを含む死を遂げられました。こういうわけで、キリストの贖いの効力は、永遠の霊にかかっています:

1. キリストの血には効力があります。なぜなら、彼は永遠の霊を通してご自身を神にささげたからです。

Iヨハネ1:7 しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩くなら、私たちは互いに交わりを持ち、御子イエスの血が、すべての罪から私たちを清めます。

永遠の霊はキリストの十字架の力、強さです。永遠の霊を離れたら、キリストの贖いは効力があり得ませんでした。それは力と強さに満ちたものにはなり得ませんでした。私は繰り返し言いますが、永遠の霊はキリストの贖いの力、強さ、効力です。

もし四つの青銅の環が格子から取り外されたら、格子状の網は落ちてしまうでしょう。格子状の網は四つの環によって祭壇に固定されていました。これは霊的意義に満ちています。私たちは十字架について、十字架上のキリストの死について、そして私たちがキリストと共に十字架につけられた事実について語るかもしれません。しかしその霊がなければ、この話はすべてむなしいものでしょう。永遠の霊を離れたら、キリストの死には効力がありません。キリストの贖いの効力と力が永遠の霊にかかっていることを認識することは、極めて重要です。

2. キリストは、ご自身を犠牲としてささげましたが、キリストの贖いの効力と力は、永遠の霊にかかっています。私たちがこのことを見るのは極めて重要です。

B. 環が格子状の網と共に一つのものに形成されていることが示しているのは、贖うキリストがその霊という結果になるということです。

ガラテヤ3:1 ああ、愚かなガラテヤ人よ、十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前にありありと描き出されたのに、いったいだれがあなたがたを惑わしたのですか？ 2 ただこのことを、私はあなたがたから知りたいのです。あなたがたがその霊を受けたのは、律法の行ないに基づいているのですか、それとも信仰を聞くことに基づいているのですか？

VI. 祭壇の両側にある竿は、証しとしての信者の組み合わせによる十字架の行動を表徴します：

出27:6 また、祭壇のための竿、アカシア材の竿を作り、青銅でそれらを包まなければならない。7 その竿は環に通し、祭壇を担ぐときに、竿は祭壇の両側になければならない。

A. 十字架を宣べ伝え、十字架につけられたキリストを告げ知らせる人たちは、証しとして組み合わせられなければなりません。

Iコリント1:23 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。彼はユダヤ人にはつまずきの石であり、異邦人には愚かではありますが、

B. もし私たちが生き生きした人であって、組み合わせの中で証しを担うことによって十字架を宣べ伝えるなら、資格づけられて、その地上の行程において祭壇を運ぶようになります。

VII. 私たちは全焼のささげ物の祭壇によって新約全体の絵を、すなわち、贖うキリスト、その霊、召会を持ちます：

Iコリント15:3 私が受けて、あなたがたにも伝えたことは、まず第一に、キリストが聖書にしたがって、私たちの罪のために死なれたこと、4 そして彼が葬られたこと、そして彼が聖書にしたがって三日目に復活させられたこと、15:45 最後のアダムは、命を与える霊と成ったのです。

12:12 それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、キリストも同様だからです。13 なぜなら、私たちはユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、みな一つ霊の中で、一つからだの中へとバプテスマされ、みな一つ霊を飲むようにされたからです。

A. 四福音書において、私たちはキリストが贖う格子状の網であり、また形成される過程にある環であることを見ます。ヨハネ1:29 その翌日、ヨハネはイエスが自分の所に来られるのを見て言った、「見よ、世の人の罪を取り除く神の小羊！」19:34 しかし、兵卒の一人が彼の脇(わき)を槍(やり)で突き刺すと、直ちに血と水が流れ出た。

B. 使徒行伝において、私たちはその霊を四つの環として持ちます。

使徒1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨む時、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムにおいても、ユダヤ全土とサマリアにおいても、また地の果てまでも、私の証し人となる。

C. 書簡において、私たちは四つの環の解釈を持ちます。

ローマ8:11 そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

D. キリストのからだは、すべてを含む霊によって、贖うキリストを全地にもたらします。(Iコリント12:12-13)

E. キリストのからだは、すべてを含む霊によって、全地にわたってイエスの証しを担います。これが新約の啓示です。

IIコリント4:5 というのは、私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、キリスト・イエスを主と宣べ伝え、また、私たち自身がイエスのためのあなたがたの奴隷であることを宣べ伝えるからです。

7 しかし、私たちはこの宝を土の器の中に持っています。それは、この卓越した力が神のものであって、私たちからではないことが現れるためです。

- ① ヘブル9:14 まして、キリストが永遠の霊を通して、傷のないご自身を神にささげられたその血は、なおさら私たちの良心をきよめて、死んだわざから離れさせ、生ける神に仕えるようにさせないでしょうか？
 FN「キリストの血は私たちの良心をきよめる」:キリストの血は、私たちの良心をきよめます。それは、私たちが生ける神に仕えるためです。生ける神に仕えるには、血できよめられた良心が必要です。良心は私たちの霊の主要な部分です。私たちが仕えることを願う生ける神は、私たちの良心に触れることによって、私たちの霊に来られます。神は義であり、聖であり、生きておられます。私たちの汚れた良心は、私たちが生き生きと彼に仕えるために、きよめられる必要があります。
- ② 人の心の中の様々な問題は、良心の汚れと関係がある:学校には、「神経質で物事や人間関係の問題を深刻に考えすぎる人」、「消極的に考えがちで暗い人」、「活力がなく、やる気がない人」、「明るい人というイメージで振る舞っているが実は喜びがなく、そのギャップに苦しんでいる人」、「自分の長所ばかり注目して短所は気にしない高ぶった人」、「周りの空気の読めない個人主義な人」、「周りの空気ばかり気にする神経の細かい人」などがいます。墮落した人には、これらの特異性があります。その根本原因は、罪、欠点、失敗などからくる良心の汚れのゆえに、「人が神に触れることができない」ことです。
 良心は、人の最も深い部分である霊の主要な部分です。良心が汚れると、人は霊を活用して神に触れることができないので、思いは理解力において暗くなり、感情は不安定になり、急に激怒したり、急に泣いたり、急に落ち込んだりし、意志は頑固で、しかも弱くなり、選ぶべきでないものを選び、選ぶべきものを拒否したりするようになります。
- ③ イエスの血は良心をきよめ、人の心の中の問題を解決することができる:キリストは十字架上で人の体をもってご自身をささげられ、血を流されました。その体と血は時間の制限を受けるものでした。しかし彼は永遠の霊を通してご自身をささげられました。この霊は永遠の霊ですから、時間、空間などのあらゆる制限を受けません。彼がご自身をささげられたことは一度で永遠であり、彼の死を通して完成された贖いは永遠であり、永遠の効果を持っています。彼の贖いの範囲はすべての罪の範囲を完全に含みます。
 あなたは自分の中の消極的なものを見出した時、それに捕らわれて暗くなったり、開き直ったりしてはいけません。永遠に効果があり、あらゆる種類の罪に対する洗浄能力のあるキリストの尊い血を適用してください。そうすれば、あなたの良心はきよめられます。良心がきよめられると、あなたの霊は強く健康になり、あなたの魂の各部分、思い、感情、意志を健康にすることができます。
- ④ 神のエコノミーの活動の中心は十字架である:神のエコノミーは、キリストがあなたの霊から拡大し、あなたの心の中に安らかなホームを建造することです。キリストがあなたの心の中にホームを造れば造るほど、あなたの心の中の様々な問題は追い出され、あなたは神にも人にも仕えることができる有能な人になります。この神のエコノミーの活動の中心は十字架です。十字架がなければ、キリストの尊い血がなければ、良心のきよめも、心の中の様々な問題の解決もなく、生ける神に仕えることもできません。

228 その靈の豊満—十字架を通して

1. 主よ、血しおにてわれをあらい、
きよきあぶらを そそぎたまえ。
わがせいかつは 失ぱいのみぞ、
れいに満たせや、主のため生く。
(復) ああ、主よ、自己より、解きはなちませ！
いまよりとわに 主を満たせや。
2. なんとかわきし われのころ；
れいの満たしを せつにもとむ。
打たれたいわに われをかくし、
生けるみずにて、あふれさせよ。
3. 冷えたるころ、にぶきあゆみ；
聖れいに満たせ、主にそむかず。
さい壇のうえに、わが身を置く；
主の火よ、くだり、焼き尽くせや。
4. 主よ、十字架にてさらに燃やせ、
われ、はいと化し、主、増すために；
日ごとその靈を 満ち満たせや、
生けるいのちを ながすために。

228 聖靈的豊満—藉十字架

1. 求主寶血潔淨我，洗盡所有罪過，
將你聖潔的膏油，重新為我塗抹。
我認自己的生活，真是失敗、軟弱，
我望充滿你的靈，完全為你而活。
(副) 哦，求主救我脫離 這個可憐的自己！
求主使我從今後，完全充滿了你。
2. 我心何等的乾旱，常為軟弱悲歎；
我是何等的盼望，能被聖靈充滿。
求主讓我今隱藏 在你擊傷石磐；
求主今聽我呼求，讓你活水氾濫。
3. 我心何等的冷淡，順服何等遲慢；
願主聖靈充滿我 使我不再背叛。
我今躺臥在祭壇，不敢稍為動彈；
求主烈火從天降，把我所有燒乾。
4. 求主十架在我身，天天作工更深，
把我度量擴充大，使我化為灰塵；
好叫聖靈充滿我，天天比前更多，
你的活水到處流，解除眾人乾渴。

280

- | | | |
|--|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. Lord, may Thy blood now cleanse me,
Wash all my sins away,
That with Thy Holy Spirit
Thou may anoint, I pray.
My service, I confess, Lord,
Is failure-full and weak;
The filling of Thy Spirit
To live for Thee I seek.
(chorus) Oh, from myself deliver,
From all its misery;
I'd henceforth be forever
Completely filled with Thee. | <ol style="list-style-type: none"> 2. Oh, Lord, how dry my heart is,
It yearns and pants for Thee;
The filling of Thy Spirit
Is now my fervent plea.
Within the smitten Rock, Lord,
I would entirely hide;
Pour thru Thy living water,
Till I am satisfied. 3. How cold my heart has been, Lord,
How slow obeying Thee;
So fill me with Thy Spirit,
I'll ne'er rebellious be.
I lie upon Thy altar | <p>And dare not move away;
Oh, may Thy flame descending
Consume my all, I pray.</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. Oh, may Thy Cross within me
Deepen its work and burn,
In me enlarge Thy measure,
And me to ashes turn.
Oh, may Thy Spirit fill me
Each day more than before,
And may Thy living water
On me and thru me pour. |
|--|--|--|